

PARTE IV (N11 – N13)

N 11 c

【正答率】51.9%

M: Oh, ma che carini! Biancaneve e i sette nani!

F: Sì. Però, vedi, i nani sono solo sei...

M: Come mai? Uno ve l'hanno rubato?

F: No. L'ho rotto io, facendo marcia indietro con la macchina.

【訳】(男)おや、まあ、何ともかわいいね！ 白雪姫と七人の小人だ！(女)うん。でも、ほら、小人は6人だけなの……。 (男)何でまた？ 誰かが1人を盗んだのかい？(女)いいえ。私が壊したの、車でバックしていて。

N12 b

【正答率】20.1%

F: L'estate si avvicina ed è... tempo di mare! La moda di quest'anno propone modelli per tutti i gusti: bikini, interi, con pantaloncini... Oggi ecco in offerta per voi questo costume intero, a sottili righe bianche e nere, in stile anni '50. Vostro a soli 49 euro!

【訳】(女)夏が近づき、そして……海の季節です！ 今年の流行は、あらゆる好みに合ったデザインを提案しています。つまり、ビキニ、ワンピース、ショートパンツ付き……。 今日、皆さまにご提供するの、こちらのワンピースの水着。白と黒の細いストライプで、50年代風のもので。わずか49ユーロで皆さまのものに！

N 13 a

【正答率】78.9%

M: È un bianco secco e frizzante, particolarmente adatto per accompagnare pesce e frutti di mare.

【訳】(男)辛口で発泡性の白で、特に魚や海の幸と合わせるのに適しています。

PARTE V (N14 – N16)

N14 b

【正答率】75.9%

F: Utile e decorativa, Kalla è dotata di quattro bracci flessibili,

orientabili in direzioni diverse, che permettono di illuminare le zone della stanza desiderate. La sua luce è omogenea, calda e riposante. Adatta a locali non superiori ai 30mq.

【訳】(女)実用的で装飾的なカッラは、さまざまな方向に向けられる 4 本の可動式のアームを備えており、それによってお部屋のお望みの場所を照らすことができます。その光は均質で、温かく、安らぎを与えてくれます。30 平方メートル以下の部屋向き。

広告が宣伝しているものは:a)椅子 b)ランプ c)テレビ

N15 a

【正答率】43.9%

M: Ohi, Giorgio! Sono Mario. Ci sei?... Non ci sei?... Ma dove sei finito?! Ti sei dimenticato dell'appuntamento? Sono trenta minuti che ti aspetto qui, come un cretino, davanti al portone di casa mia! Al telefonino non rispondi... Beh, io ora raggiungo Claudio e Lucia a teatro, anche loro staranno aspettando. Lo spettacolo comincia alle nove. Cerca di arrivare in tempo o fammi avere tue notizie! Ciao.

【訳】(男)おーい、ジョルジョ！ マーリオだよ。いるの……？ いないの……？ 一体どこに消えたんだ!? 待ち合わせを忘れたのかい？ 30分、僕はここで君を待っているよ、馬鹿みたいに、自分の家の門の前で！携帯電話に君は出ないし……。じゃあ、僕は今からクラウディオとルチーアに劇場で合流するからね、2人も待っているだろうし。舞台は9時に始まる。間に合うようにしてね、あるいは君の状況を僕に知らせて！ じゃあね。

マーリオは:a)家の前でジョルジョを待った b)待ち合わせを忘れた
c)クラウディオとルチーアと一緒にすでに劇場にいる

N16 c

【正答率】70.7%

F: Guardalo, poverino! Non ha nemmeno lo spazio per muoversi! Che tristezza! A me questi posti mi fanno venire una rabbia...

M: Sì, lo capisco, ma questo non è mica nato in natura...

F: Eh, lo so! Ancora peggio! Nella sua vita non sarà mai libero... Non potrà mai volare...

M: No, ma almeno qualcuno lo comprerà, lo porterà a casa, si prenderà cura di lui...

F: Lo so, ma anche se lo compreranno, vivrà sempre dentro una gabbia!

M: Questo è vero...

F: Dai, usciamo. Questo posto mi mette di cattivo umore.

【訳】(女)見てよ、かわいそうに！ 体を動かすスペースさえもないわ！なんて悲しいことでしょう。私はこういう場所に来ると、怒りがこみ上げてくるの……。 (男)うん、分かるよ。でもこれは自然の中で生まれたわけじゃないし……。 (女)ええ、知ってる！ さらに悪いことだわ！ 生きている間、自由になることは決してないでしょう……。決して飛ぶことはできないでしょう……。 (男)ないだろうけど、少なくとも誰かが買って、家に連れ帰って、世話をするだろう……。 (女)分かってる、でもたとえ誰かが買って、ずっと籠の中で生きることになるのよ！ (男)それはそうだね……。 (女)さあ、出ましょう。この場所は、私を嫌な気分させるわ。

このとき2人は:a)動物園を訪れている

b)テレビでドキュメンタリーを見ている c)ペット・ショップにいる

PARTE I (N29 - N49)

N34 d 【正答率】52.9%

【訳】奥さま、包みを持ち帰りますか、それとも私たちがそれをあなたの家に送る方がよろしいですか？【解説】敬称のleiを使って話しているので、その間接補語人称代名詞はleです。一方、il pacco「包み」は男性単数名詞なので、その直接補語人称代名詞はloです。その結合形はglieloなので、d)が正解です。

N35 b 【正答率】58.1%

【訳】この夏、私たちは外国に旅行する予定です。【解説】「外国に、外国で」は、前置詞aと定冠詞を用いて〈all'estero〉と表現します。したがって、b)が正解です。

N36 d 【正答率】42.7%

【訳】昨日、君は外出したが、そうではなく、試験の準備をするために家にいるべきだったのに。【解説】「家にいるべきだったのに、実際には家にいなか

った」という文意です。過去において実現する可能性はあったが、実際には実現しなかった事柄を表すのは条件法過去なので、d)が正解です。a)とb)の近過去は、「するべきだったことを、実際にした」という意味になります。c)の先立未来は、過去の事柄に関する推測を表しますが、ここでは家にいなかったという事実が分かっているので、不適切です。

N37 b 【正答率】70.5%

【訳】私たちは到着するや否や、すぐに仕事にとりかかりました。

【解説】ここでの **appena** は接続詞なので、動詞は不定詞ではなく、活用した形を用います。動詞 **arrivare** は移動を表す自動詞なので、近過去などの複合時制では、助動詞に **essere** を用います。したがって、b)が正解です。なお、**appena** の後に過去分詞だけを置く構文もあり、ここでは **appena arrivati** と言い換えられます。

N38 c 【正答率】69.5%

【訳】高速道路での移動の途中に、私たちは休憩するためサービスエリアに立ち寄りました。【解説】再帰動詞 **fermarsi** の近過去なので、助動詞に **essere** を用います。そして再帰代名詞は動詞の前に置くので、c)が正解です。

N39/40

【訳】動物が好きでない人もいます、なぜならそれらが怖いからです。

N39 c 【正答率】40.7%

【解説】女性複数の名詞 **persone** 「人々」を修飾する不定形容詞は、女性複数の形の **alcune** 「何人かの」が適切なので、c)が正解です。a)の不定形容詞 **qualche** 「何人かの」は、単数の名詞を修飾します。b)の **qualcuno** 「誰か」は不定代名詞なので名詞を修飾できませんし、単数形だけなので **qualcune** という形はありません。d)の不定形容詞・不定代名詞 **nessuno** 「誰も～ない」も単数形だけなので、**nessune** という形はありません。

N40 d 【正答率】40.2%

【解説】成句 **avere paura di + ~** は「～が怖い、～に恐怖を抱く」という意味です。<di + ~>の部分は代名小詞 **ne** で置き換えられるので、d)が正解

です。

N41/42

【訳】この水曜日、アルベルトは出張のため旅立つでしょう。したがって、日曜日のパーティーには来られないでしょう。

N41 c

【正答率】47.1%

【解説】現在を基準として最も近い「～曜日に」は、前置詞も冠詞も付けずに曜日の名詞のみか、指示形容詞 *questo/a* を付けて表します。これは未来のことも、過去のこともあるので、明示するには形容詞 *prossimo/a*「次の」か *scorso/a*「前の」を付けます。例えば水曜日であれば、*mercoledì prossimo* あるいは *mercoledì scorso* とします。ただし、形容詞が名詞の前につく場合は定冠詞が必要で、*il prossimo mercoledì* となります。したがって、a)とd)は不適切です。b)の *quello* は、男性名詞 *mercoledì* の前では *quel* としなければなりません。以上のことから、c)が正解です。

N42 a

【正答率】66.3%

【解説】文の後半の「来られないでしょう」では、直説法未来が使われており、現実的な内容です。その文脈に合うのは、同じ直説法未来なので、a)が正解です。b)の条件法現在、d)の条件法過去は、ある条件のもとで、ある事柄が実現し得る（「出発するかもしれない」）、あるいは、実現し得た（「出発したかもしれない」）、という可能性を表すので、文の後半の現実的な内容と組み合わせると不自然です。c)の直説法大過去は、過去の基準となる時点より以前の事柄を表しますが、文脈にその基準の時点がないので、不適切です。

N43/44

【訳】お願いだから、子どもたち、クラーラおばさんに親切にしてね。とても年をとっているの。時々おばさんが退屈でも、我慢する必要があるわよ。

N43 d

【正答率】23.8%

【解説】親切にするよう、子供たちにお願ひしています。このように、何かすることを話相手に対して求めるときは命令法を用いるので、d)が正解です。

N44 b

【正答率】51.9%

【解説】ここで **bisognare**「必要がある」は、主語を持たない非人称動詞として使われています。非人称動詞は常に 3 人称単数で使われるので、**b)**が正解です。

N45/46

【訳】私は、子供の頃、2 匹の小さな金魚を長い間飼いました。

N45 a 【正答率】45.2%

【解説】〈da＋～〉で「～の頃」を意味し、文脈に合うので **a)**が正解です。 **b)**の **ero** という動詞を使うと、次の動詞 **ho tenuto** と合わせて、一文の中に 2 つの動詞が接続詞なしで並ぶことになり、不適切です。接続詞の **c)**と **d)**の後に名詞だけを置くことは、通常ありません。

N46 b 【正答率】18.9%

【解説】漠然とした年頃を表す **da bambina**「子供の頃」だけなら半過去を使うところですが、明確な期間を示す **per lungo tempo**「長い間」があるので近過去を使います。したがって、**b)**が正解です。助動詞 **essere** の後に、他動詞 **tenere** の過去分詞を置いた **c)**と **d)**は受動態なので、文脈に合いません。

N47/48/49

【訳】「私がスーパーで何を買わなければならないのか言って」「君のためにリストを書いたよ。テーブルの上にある、台所のね」

N47 d 【正答率】84.6%

【解説】話し相手が「リストを書いた」と返事をするので、話し手は買うものについて尋ねたことが分かります。したがって、**cosa**「何」の **d)**が正解です。

N48 b 【正答率】76.7%

【解説】話し相手のためにリストを書いていますので、間接補語人称代名詞 **ti**「君に」の **b)**が正解です。

N49 c 【正答率】94.3%

【解説】会話をしている二人は、両方とも、台所のテーブルを既に知っていると考えられます。既知の特定の名詞の前には定冠詞を付けるので、**sul** の **c)**

が正解です。b)のように **su** と定冠詞を分けて書くことは、現代の日常的な文章ではありません。